

## 段階的レスポンス・ペーパー

学期を通して、指定された読書に対する約 500 語のレスポンスを複数回提出することになる。これらのレスポンスは、以下の三種類に分かれている。

- 要約型
- 論証型
- 批判型

三種類すべてに取り組むことになるが、最初は要約型から始まり、最後は批判型で終わる。この課題は、学生が自分の関心に応じて柔軟に調整できるよう設計されており、どの読書課題について書くかを自分で選ぶことができる。学期の最初に、どの読書について書くかをフォームで提出してもらう。

### 要約型レスポンス

要約型レスポンスでは、読書の議論を要約しなければならない。これは以下を意味する：

- 著者が応答している問いを特定すること。
- その問いに対する著者の立場を特定すること。
- その立場を支持するために著者が提示している具体的議論を特定すること。
- その立場と議論を、明確かつ直接的に説明すること。つまり、著者の中心的議論を理解するために必要でない部分を切り落とし、核心へまっすぐ到達するような形で説明すること。

重要：要約しなければならないのは、論文そのものではなく、その論文の議論である。つまり、「著者はまず x を述べ、その後 y を述べ、最後に z について論じている」と書いてはならない。そうではなく、著者の立場を支える推論そのもの

——すなわち論文の核心的議論——を抽出し、それを自分自身の言葉で提示しなければならない。

また、要約すべきなのは著者自身の議論であり、論文内で紹介されている他の議論ではない、という点も重要である。哲学論文では、著者はしばしば競合する立場をかなり丁寧かつ好意的に提示したうえで、それに反論する。したがって、論文の議論を要約する際には、著者自身が擁護している立場と、単に紹介した後で批判している立場との違いを明確にしなければならない。

### 論証型レスポンス

論証型レスポンスでは、要約型レスポンスと同様に、著者がどの問いに取り組んでいるのか、その問いに対してどのような立場を取っているのか、そしてその立場を支持する議論は何かを特定しなければならない。

しかし、それに加えて、その議論に対する応答可能性——すなわち、著者の議論が誤っている可能性のある箇所——も指摘しなければならない。これは以下を意味する：

- 著者が応答している問いを特定すること。
- その問いに対する著者の立場を特定すること。
- その立場を支持するために著者が提示している具体的議論を特定すること。
- その立場と議論を、明確かつ直接的に説明すること。
- 議論の脆弱な点——すなわち、著者の議論が誤っている可能性のある箇所——を特定すること。

同じ語数で、より多くのことを行わなければならないため、論証型レスポンスでは、要約をさらに焦点化し、簡潔にしなければならない。おおよそ半分を議論の要約に、残り半分を脆弱な点の提示と、その点について著者がなぜ懸念すべきなのかの説明に充てること。

重要：この二つの段階の両方を含まないレスポンスは、課題の基本要件を満たしていないものと見なされる。論証型レスポンスにおいて中心となるのは第二の部分である。したがって、第二部分は第一部分よりも簡略であってはならない。最後に申し訳程度に付け加えられた短い応答ではなく、十分に展開されたものでなければならない。理想的には、両部分はおおよそ同じ長さであるべきである。もっとも重要なのは、第二部分——すなわち応答部分——が十分に発展していることである。

### 批判型レスポンス

批判型レスポンスでは、論証型レスポンスで求められるすべてを行わなければならない。しかしそれに加えて、あなたが提示した反論に対して、著者自身ならどのように応答するかを考え、その応答を説明しなければならない。これは以下を意味する：

- 著者が応答している問いを特定すること。
- その問いに対する著者の立場を特定すること。
- その立場を支持するために著者が提示している具体的議論を特定すること。
- その立場と議論を、明確かつ直接的に説明すること。
- 議論の脆弱な点を特定すること。
- あなたが提示した脆弱な点に対して、著者ならどのように応答するかを考え、その応答を説明すること。

論証型レスポンスと同様に、同じ語数でより多くの作業を行わなければならないため、文章はさらに簡潔かつ焦点化されていなければならない。おおよそ三分の一を著者の議論の要約に、三分の一をその議論への応答に、残り三分の一を、その批判に対する著者側からの応答に充てること。

重要：これら三段階すべてを含まないレスポンスは、課題の基本要件を満たしていないものと見なされる。批判型レスポンスにおいて中心となるのは第三部分である。したがって、第三部分は最初の二部分より簡略であってはならない。最後に申し訳程度に付け加えられた短い応答ではなく、十分に展開されたものでなければならない。

### 全体に関する注意

レスポンスの構造が、上記の指示に従っていることは極めて重要である。この課題は、あなた自身の意見を述べるためのものではない。つまり、論証型レスポンスでは、たとえあなた自身が著者の立場や議論に同意していたとしても、その議論の脆弱な点を指摘しなければならない。同様に、批判型レスポンスでは、たとえあなた自身が著者の議論に反対していたとしても、自分が提起した問題に対して、その議論を著者の立場に立って擁護しなければならない。

したがって、通常のエッセイ（一般には自分自身の信念を擁護するもの）とは異なり、この課題には「私は～と思う」や「私は～と主張する」といった表現が入り込む余地はない。